

## 年間第14主日の説教

金 大烈 神父 2011年7月3日(日)

《疲れた者、重荷を負う者は、イエス様のもとへ》

おはようございます。今日から、日曜日の朝のミサの時間が1時間早くなりました。たった1時間の違いかもしれませんが、結構大きい変化ですよ。皆様もある程度緊張なされたのではないのでしょうか。今朝、ミサの前に挨拶を交わした方は、自転車で40分くらいかけて来た、とおっしゃっていました。自転車で走りながらその方の頭に浮かんだことを想像してみました。きっと気持ち良かったのでしょうか。行きたいところがあるから、少し疲れても気持ちよく自転車をこぎ、一生懸命に目的に向かって走る気持ち。その方は既に癒されたのだと私は思います。このような気持ちが、私たちには何よりも必要なのではないのでしょうか。

3か月間、ミサの時間が変更になります。私も一つの変更をしようと思います。これは、皆様へのプレゼントになるか、その反対になるのか分かりませんが、3か月間、できるだけインパクトのある、1分以内の説教に致します。今日は最初の日ですので、このように長く話しましたが、来週からは1分以内にします。そのかわり条件があります。1分以内の説教なので、覚えていただきたいと思います。一週間の生きる基準にするつもりで、皆様もこの変更に参加してくだされば最高の効果をあげられるのではないかと思います。

昨日の夕ミサは、『特典ミサ』でした。日曜日のミサに与る方にとっては、普通の土曜日のミサになりますが、日曜日の主日のミサに与れない方が来られた場合は、そのミサは日曜日のミサと全く同じミサになります。昨日も、今日与れない方が結構たくさん与って下さいました。それを見て、日曜日に来られない場合は、土曜日に主日のミサに与るのもよい方法ではないかと思いました。それならば、主日を守れるのではないかと思います。主日のミサのチャンスは3回あるのです。土曜日の18:30からのミサ、日曜日の8:30からのミサと20:30からのミサです。「時間が間に合わないから与れません。」とは言えないでしょう。では、もしその3回のミサにも与れない場合にはどうしたらよいのでしょうか。仕事の都合でいくら頑張っても与れないのならば、平日のミサ1回の日を決めて、主日のミサとして与って下さい。ただし条件があります。私に話して下さい。「どうしても日曜日のミサに与れないので、平日のミサを主日のミサとして与りたいのです。」とおっしゃって下さい。その場合には免除されますので、よろしくお願ひ致します。

さあ、1分以内の説教に入ります。

**「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」**この言葉を覚えましょう。やはり私たちは疲れます。何をしても疲れます。もし愛する関係になれば、愛にも疲れます。どのような目で見るとよって、全てが疲れます。その時に、何よりも先に思い浮かべべきなのはイエス様です。それは、私たちが信者であり、全ての生き方の基準はイエス様になるから

です。そのイエス様が「休ませてあげよう」とおっしゃったのです。だから、何かに疲れを感じたら、先ずイエス様を思い浮かべなければなりません。私たちにはそれしか方法がないことを覚えてください。

二つ目です。私たちはどうしてもくびき 軛を負わなければなりません。もし負わなくてもよいのならば、イエス様は「軛を全部なくしてあげるから、私のところへ来て休みなさい。」とおっしゃったと思います。しかし、「わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽い。」とおっしゃったのです。つまり、この世の中に生きている限り、私たちが負わなければならない軛は必ずあるのだということです。神学的、信仰的に言えば、それは十字架でしょう。その十字架を喜んで、自分の宝物として受け取る姿勢がなければ、私たちは絶対にこの世を美しく見ることはできないでしょう。その十字架によって、いつも「不幸、不幸」と言いながら生きなければならなくなるのでしょう。それを覚えましょう。

ありがとうございました。